

平成 25 年度継続事業に関する継続評価書

研究機関 : 日本電気株式会社

研究開発課題 : 小型航空機搭載用高分解能合成開口レーダーの研究開発

研究開発期間 : 平成 24 ~ 26 年度

代表研究責任者 : 村田 稔

■ 総合評価 : 適(適/条件付き適/不適の3段階評価)
(評価点 20 点/ 25 点中)

(総論)

当初計画を着実に進めており、今後、十分な成果を得られると期待されることから、引き続き研究開発を推進することが適当である。

(コメント)

- 当初の計画通り、順調に研究開発が進んでいる。
- クリティカルパスの抽出も適切であり、十分な成果が期待できる。引き続き、継続して研究開発を実施すべきである。
- 技術面や計画実施上のマネジメント、予算の管理も適当である。
- 今後積極的に成果公表を増やし、航空機 SAR ユーザの裾野を広げることを期待したい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 3点

(総論)

当初計画を着実に進めており、計画通り目標を達成するものと見込まれる。

計画通りの成果が得られていると認められるが、外部発表等、研究開発の成果を積極的に増やすよう期待したい。

(コメント)

- ソフト面及びハード面の構成や計画の進捗も良好である。
- 当初計画通り研究が進行しており、十分な成果が期待できる。
- 外部発表などの研究開発の成果を積極的に増やすよう期待したい。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 4点

(総論)

予算計画に沿って、適切かつ効率的な執行が行なわれていると評価できる。

(コメント)

- 予算計画に沿っており、妥当である。
- 適切かつ効率的な執行が行なわれていると評価できる。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価S

評価点 : 5点

(総論)

研究開発後の実用化、海外展開が期待できる計画となっている。

研究の進捗に合わせた研究開発計画の適正化を行っており、十分な成果が期待できる。

(コメント)

- 実用化や海外展開が期待できる実施計画となっており、世界をリードする成果を期待するとともに、日本のこの分野の技術発展の牽引者となることを期待する。
- 計画期間を意識した適正化がなされている。
- 研究開発におけるクリティカルパスを適切に抽出している。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 4点

(総論)

研究開発の進捗状況に合わせて、確実に研究計画を達成できるよう見直しを行っており、効率的な予算計画となっている。

(コメント)

- 研究開発実施計画に基づき適切である。
- 効率的な予算計画となっており、目標達成に有効であると認められる。
- 研究開発の進捗に合わせて予算計画の見直しを行っており、適切である。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 4点

(総論)

研究員の増員等を行っており、適切な実施体制が組み立てられていると評価できる。

潜在的ユーザの要求を積極的に反映する場として研究開発運営委員会を設置しており、今後、この委員会等を有効に活用することを期待したい。

(コメント)

- 平成 24 年度に 7 名の研究員を増員する等、実施体制の強化を図っており、適切な実施体制が組み立てられていると評価できる。
- フェーズ管理と人材配置が良好である。
- 潜在的ユーザの要求を積極的に反映する場として研究開発運営委員会を設定しており、有効に活用することを期待したい。